

令和3年度 学校評価表 (最終)

三原市立沼田東小学校(校番12)

a 学校教育目標	夢や目標に向かって、ともに伸びる子供の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】自分を愛し、夢を語る児童の実現 【ビジョン】児童、教職員、保護者が「夢や目標に向かって、自ら伸びるとともに伸びる」という教育風土がある学校 <めざす学校像>「ともに伸びる」という教育風土のある学校 <めざす子ども像>「規律あるかわり合いを通して、自ら考えともに伸びようとする子ども」 <めざす教職員像>「自分の姿を鏡とし、かわりきった結果としての児童の姿に自信と誇りが持てる教師」
----------	-----------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善策			学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期目標	e 目標達成のための具体的方策(大枠)	f 評価項目	指標	参考		10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善策	l 評価			m コメント
					現在の状況(昨年度3学期末・4月中旬)	目標値	h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
学力向上	【授業改善による学力定着】	・45分間の授業で、基礎基本の力を身に付けるための授業改善【研究部】 ・「めあて」が児童の主体性を引き出すものであり、「めあて」と「まとめ」がつながりのある授業改善【研究部】 ・教科書の文章を「読む」ことができる授業改善【研究部】 ・教材文等のことばに根拠を求める授業改善【研究部】 ・「聞く」ことを大切に、ねらいを達成するためのペアやグループによる学習のある授業改善【研究部】 ・通過率40%未満の児童への具体的な対応がある授業改善【研究部】 ・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり【研究部】 ・「ねらい」を達成するために、ICT機器等を活用した授業改善【研究部】	単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の平均値が指標に示す点を超える学級数 【評価時期】(1学期末・2学期末)	平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)	国語	8/12学級	12/12学級	9/12学級	8/12学級	74%	単元末テストの結果は、社会は目標達成したが、国語・算数・理科は目標値には至らなかった。 ・国語では、言葉の習得(言葉のまとまり、語彙力、言葉の意味)が不十分であった。また、正しく書き表す力の定着も不十分であった。 ・算数では、時刻と時間、図形の単元や、活用問題に課題が見られた。問題文を正しく読み取る力や、基礎的な知識をもとに活用する力の定着を図る必要がある。	学び方の選択肢と自己決定の場がある授業を仕組み、主体的な学びを実現していく。 ・1時間の授業の中で、同じ問題に繰り返し取り組ませたり、多くの問題を解いたりすることで、理解と定着を図る。 ・個々の課題を的確につかみ、授業の中で適切な手立てや声かけをしていく。また、何卒どの単元につきましても、原因があるかを探り、そこに立ち返って手立てを講じていく。 ・社会、理科の教科書や資料をすらすら読めるよう、繰り返し音読させる。資料の読み取り方を指導する。 ・ICT機器を活用し、個々の定着状況に応じた家庭学習に取り組ませ、内容、問題数などを工夫し、意欲的に取り組めるようにする。	○	・全体的に良好と思います。 ・算数のICT活用が期待します。 ・算数が心配です。困難さのある児童への補充等、残り少ない取組をお願いします。		
					算数	7/12学級	12/12学級	7/12学級	6/12学級	国67% 算50%						
社会	8/8学級	8/8学級	8/8学級	8/8学級	社100% 理75%											
理科	8/8学級	8/8学級	5/8学級	6/8学級												
豊かな心と親和性の高い集団	【規範意識の育成】	教師が、児童に所属意識を持たせ、円滑な集団生活の基盤となる(規範意識・ルール・マナー)を身に付けさせる	児童質問紙よりアンケートによる調査 (あ)「国語の・算数の・理科の・社会の授業がよくわかる」 教科ごとにとり総合評価する (い)「授業では、課題や問題について自分の考えをノートやプリントに書いている」 (う)「授業では、課題や問題について自分の考えを話している」 (え)「授業では、自分の考え方や解き方と比べながら友達や先生の話を聞いている」 (お)「授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりする」 (か)「ICT機器を使って、問題に挑戦したり、まとめたり、調べたりすることを進んでいる」 【評価時期】(1学期末・2学期末)	学級生活満足群に位置づく児童の割合75%以上の学級数	71.0%	12/12学級	2/12学級	4/12学級	33%	学級生活満足群においては、41%～95%と学級間の差がある。 ・40%台は1学級、50%台は1学級、60%台は3学級、70%台は3学級、80%台は1学級、90%台は3学級である。 要支援群の児童は、学校全体で7名いる。 学習や友達関係の悩みを抱えていたり本人にも理由はよく分からないが、学校に来ることができなくなっている児童がいる。	・全教職員で支援と見守りをしていく。朝の会から下校まで管理職を含め、あいている教職員が学級に入り、担任のサポートとともに児童にかかわる。 ・週2回の暮会の中で、児童交流の場を設け、対応策や困り感だけでなく、効果のあった手立てや取組を交流し、自分の指導に活かしていく場とする。 ・個別面談を学期に1回は設ける。 ・長期休業中には、児童交流だけでなく、学級づくりの在り方や自己肯定感を高める取組等の研修の場を設け指導に活かす。	○	・コロナの影響が家庭的にも落ち着いたか不安です。頑張ってください。 ・何が不満なのか、その原因を探ること、また耐性(レジリエンス)の育成も必要に思う。			
					(あ) 93.6% (い) 91.3% (う) 88.2% (え) 87.2% (お) 86.8% (か) データなし	90%	90.7%	90.2%	94.5%					(あ) 100.2% (い) 97.4% (う) 85% (え) 92.4% (お) 89.5% (か) 102.8%	児童質問紙によるアンケートの結果は、2項目が目標を達成している。 ・「(あ)国語の・算数の・理科の・社会の授業がよくわかる」では、国・算では肯定的評価が90%を超えているが、理87.6%、社88.6%という結果だった。 ・「(う)授業では、課題や問題について自分の考えを話している」は、10月より1.3%下がっている。また、自分の考えを話すことに自信がない児童が多い。 ・「(え)授業では、自分の考え方や解き方と比べながら友達や先生の話を聞いている」では、83.2%が肯定的評価をしている。聞かずに聴くか変えていかなければならない。 ・「(お)授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりする」では、10月より7%下がっている。調べ方を自分で考えようとする活動が必要である。	
健やかな体	【授業改善による体力の向上】【感染症防止】	教師が、児童に確かな目標を持たせ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する	児童質問紙よりアンケートによる調査 「体育の授業は楽しい」 「体育の授業は楽しい」	「感染症防止のためにマスク着用、手洗い、3密を防ぐことをしている」 【評価時期】(1学期末・2学期末)	95.8%	100%	94%	94%	98.6%	「体育の授業」94% 「感染症」98.6% 「感染症」95.1%	1項目を除いて、目標値には至らなかった。7月のアンケート結果と比較すると、最も低かった「自分のよさを周りの人に認められていると思う」は、8ポイント、他2項目アップしている。しかし、依然としてこの項目は低く、また、2番目に低い「自分にはよいところがある」の項目とつながりが深いことを、自信を持たせることが必要である。	○	・アンケートによる回答はほとんどの項目で目標達成されており、日頃の指導者の努力が伺えます。			
					(あ) 95.1% (い) 91.3% (う) 83.3% (え) 93.4% (お) 95.5% (か) 92.0%	95%	97.2%	93.7%	96% 98.6% 93.2% 92.8% 95.2% 94.2% 102%							
働き方改革	教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、行事等の精選をし、児童に向き合う時間を確保する【教務部 総務部】 ・行事等の内容を精選し、行事に係る練習時間数を減少する。 ・総合的な学習の時間の内容を精選する。 ・各々が担当する行事を精選する。 ・関係機関・団体と連携する取組について、学校が担う業務を軽減する。 ・定時退校を実現する。 ・見直しを持った業務を行う。	〇市の方針「勤務時間上限の目安時間」(上限の目安時間)及び「特例的な扱い」に記載されている内容を達成する。 上限目安時間・45時間/月を超えない。・360時間/年を超えない。 特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超える月は、1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれの期間について、1カ月当たりの平均が80時間を超えない。 【評価時期】(9月末・1月末)	勤務時間外の在校時間 全教職員年間360時間以内の割合	58%	100%	62%	57%	57%	・10月から1月の間で、月45時間以内を達成できた延べ人数は、96人中55名であった。10月は24人中8名、11月は9名、12月は16名、1月は22名が月45時間以内を達成している。12月・1月は冬休みなどもあり、達成率が高かったと思われる。12月は評価の忙しい時期であるのに、達成率が高かったのはよかった。10月・11月は研修や・修学旅行・社会見学・参観日などの行事と成績処理のために授業を進めにくくはならないかと思われ、また、学級によって数値に差が見られることから、指導内容や児童の意識に違いがあることも結果に繋がっているのではないかと考えられる。	・10月から1月の間で、月45時間以内を達成できた延べ人数は、96人中55名であった。10月は24人中8名、11月は9名、12月は16名、1月は22名が月45時間以内を達成している。12月・1月は冬休みなどもあり、達成率が高かったと思われる。12月は評価の忙しい時期であるのに、達成率が高かったのはよかった。10月・11月は研修や・修学旅行・社会見学・参観日などの行事と成績処理のために授業を進めにくくはならないかと思われ、また、学級によって数値に差が見られることから、指導内容や児童の意識に違いがあることも結果に繋がっているのではないかと考えられる。	○	・努力の跡は伺えるが、目標未達成。各自が頑張るしかない。ただし、児童が一番でお願いします。 ・会議の削減、仕事の選択…。削れることを思い切って組織として実行していくことでしよう。				

【自己評価 評価】
 A: 100≦(目標達成)
 B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80
 D: (できていない)<60

イ:自己評価は適正である。
 ロ:自己評価は適正でない。
 ハ:分からない。